

不登校の子ども達の葛藤を少しでも理解し、支援の輪を拓けよう
と始めたボランティア団体〔民間教育施設・教育研究所の職員、
不登校の子ども達、そのOB、保護者、その他等からなる不登校
問題研究会（旧称・登校拒否研究会）〕の年一回行う「夏の研修会」
も11年目を迎えるとしております。参加者のべ人数も今年度で
5000人を超えようとしております。毎年、参加して下さる全国
の先生方、学校で順番に参加される先生方、講師の先生に支えら
れ、今日まで会を続けることが出来ました。本当にありがとうございます。

平成13年度夏期セミナー

「教師&専門家のための不登校問題研修会」

平成3年にスタートした教師&専門家のための
不登校問題研修会も今年で11年目を迎えました。
今年は『子どもの心を捉える生徒指導』を全体
のテーマに据えて行います。

8月22日（水）

『不登校問題等に対する教育行政の取組』

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

生徒指導調査官 吉富 芳正

いじめ・不登校・学級崩壊、校内暴力など、学校
は今様々な問題を抱えている。行政として、様々
な調査結果を踏まえ、教委・学校における取り組
みについて考える

『子どもと家庭の諸問題に対する福祉行政の取組』

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

総務課児童福祉専門官 坂本 正子

児童虐待から不登校問題など、今日の家庭は
様々な問題を抱えている。児童相談所は児童家庭
福祉の立場から具体的な援助活動をしている。行
政の取り組みを紹介する。

シンポジウム『私の不登校体験・親の対応、先生
方の指導援助、助かったこと嫌だったこと』

コーディネーター/NHK 週刊子どもニュースキャスター

池上 彰&様々なタイプの不登校経験者3名~4名

様々なタイプの不登校経験者から体験談を聞く。
彼らが感じた家庭・学校の対応のあり方を聞き、
タイプ別の対応のあり方を一緒に考える。増えつ
づける不登校に対して明日への援助の手がかり
を探る。

8月23日（木）

『学級崩壊・授業困難はこうして乗り越える』

国際学院埼玉短期大学教授

附属教育相談研究センター所長 金子 保

学級崩壊・授業困難は全国各地の学校に広がっ
ている。幼児教育から学校教育まで実践的で、誰
でも取り組める問題克服の鍵を常に提供する我
が国を代表する教育学者から学ぶ。

『教育臨床から教室へ、求められる

子どもの心を捉える生徒指導』

奈良県教育研究所教育相談係長 池島 徳大

学校現場から教育相談、その後国立教育会館で
教員研修活動を行う。再び教育臨床の場に戻り、
子供の心を捉える生徒指導を実践する講師から
明日の生徒指導のあり方を学ぶ。

『社会調査から見たいじめ・不登校現象』

大阪市立大学大学院教授 森田 洋司

いじめ・不登校の社会調査からこれらの社会現象を様々な角度からシャープに分析する。人間関係の希薄な子ども達、そこから派生するいじめ、不登校等様々な問題行動の構造を我が国を代表する社会学者から学ぶ。

8月24日(金)

『ひきこもり・不登校、肯定的感情を育てる対応』

教育研究所所長 牟田 武生

臨床の場から見た最近のひきこもりを伴う不登校の子ども達、その精神世界の理解と対応。保護者への援助のあり方。否定的感情から肯定的感情に変化する時、再登校・社会参加が始まる。

『不登校・担任はいかに取り組むか』

国立特殊教育総合研究所

情緒障害教育研究室長 花輪 敏男

障害児教育・普通学級から学校教育相談臨床で多くの実績を残してきた講師。すぐに役立つ具体的ノウハウを学ぶ。教育相談者、適応学級指導者、生徒指導担当者必修講座。

会場の皆様と考える一問一答

『子どもの心を捉える生徒指導とは』

回答者 花輪敏男・牟田武生/司会 増田ユリヤ

悩みを持つ子ども、教師不信の強い子ども、善悪の規範意識の薄い子ども、無気力な子ども、様々な子ども達の心を開くことから始まる生徒指導。受容と指導のバランスを微妙に取りながら進める生徒指導のあり方を具体的に考える。



8月22日 シンポジウムへむけて

『私の不登校体験・親の対応、先生方の

指導援助、助かったこと嫌だったこと』

不登校問題研究会 幹事 牟田 武生

子ども達の不登校体験を聞けば聞くほど、十人十色であることは、誰でもが感じる感想ではない

でしょうか。対応方法を考える時、そのためマニュアルが出来ないことが理解できます。しかし、子ども達の心の中に流れる心情には、共通するものがあるような気がします。それは親に対する思いや他人に対する漠然とした不安、緊張、恐怖などです。さらに、どうにもコントロール出来ない自分自身に対する苛立ちや情けなさが、根底に流れているような気がします。

カウンセリングでも、相手の話を聞くということが非常に大切な仕事になりますが、つい自分の考え、状況、経験や体験等の、自分の背景を持って相手の話を聞き、そして、自分の理解の範囲内で、この子は

「ここで考え違いをしている」

「この考え方が甘いから駄目なのだ」

「そんな精神力が弱いことではこれから先、生きていけない」

「我慢が足りない。もっと苦しいことは、人生山ほどある」

等の自分の経験や考え方との違いを見つけ

「これだから駄目なのだ」と判断してしまいがちです。

そして、返答で相手に対して、それらの“誤り”を自分自身の経験や考え方を裏付けにして善意で指導したりします。子どもにとっては、自分の気持ちや感情をやっとの思いで話しているのに、現実的なことを誰でもが、考えれば解るような常識的なことで「君は間違っている」と説教された後味の悪さを感じる人が多いようです。そして、自分自身「なぜ、あんな人に心の中のことを話したのだろうか」と言う疑問が生じ、益々心を閉ざす子どもが多くいます。

子どもの体験・経験談を聞く時は、カウンセリングマインドで聞きましょう。ひきこもりをともなう不登校の子は自分の状態に苦しみ、何とか変化させようと葛藤しています。また、無気力な状態に陥っているアパシータイプの子は「これではいけないな」と感じながら、ズルズル生活をしています。もし、「怠け」でこのような生活を続けているならば、強い登校刺激が必要ですが、子ども

自身に自分の内面から湧き上がる気力が、起こらなければ継続する力がないので、日常生活に変化は起きません。これらのタイプの不登校は非行行動等がある反社会的なものではなく、非社会的行動なので、倫理感や善悪だけで指導しても、効果が上がらないばかりか、子どもの状態像の悪化を招く原因にもなります。

たとえ、子どもであっても、精神的には私たち大人よりも厳しい体験をしているかも知れないのです。そんな子ども達の話の聞くとき、否定感情よりも肯定感情で聞いてみましょう。そうすると、彼らの心の苦しさが少しは理解出来るかも知れません。

「なるほど、そのように感じるのか」

「ひきこもるとそんな気持ちになるのか」

「いじめが続くと他人が信じられないだけでなく、自分自身にも不信感が生まれてくるのか」

「教師のちょっとした一言でそんなにも心が傷つくのか」

「廻りの人たちの理解と適切な対応によって、そんなにも変化するのか」

等、聞き手が体験していない事柄を素直に受け止め、自分自身の仮体験としていきます。さらに、ヒヤリングを積み重ねていきます。そして、その中に流れる共通する様々な心情を拾い上げていくことによって、彼らの心が自然に見えていくはずです。それらの心情をベースに、対応する個々の子ども達に応じた対応方法を考えるのはいかがでしょうか。きっと何かが変わるはずです。

平成 12 年度第 10 回

教師&専門家のための登校拒否研修会

参加された皆様の声より

昨年のアンケートの中からいくつかのご意見を掲載させていただきました。皆様にご回答いただいたアンケートは各講師の先生方へ複写しお送りさせて頂いております。

8月21日(月)

「不登校問題等に対する教育行政の取り組み」

文部省初等中等教育局

中学校課生徒指導専門官 笹井 弘之

- 文部省、厚生省の動きを直接聞くことが出来るので毎回楽しみにしている。初日の午前中なので出席者が少ないのが惜しまれる。速報値等統計資料が分かりやすくよかった。(新潟県)
- 最新データをもとに、文部省が不登校問題へどう取り組んでいるかわかった。不登校が増え続けている現状がわかり、何とかしていかなくてはという気持ちになった。(埼玉県)

『問題を投げかけている

子ども達への福祉的対応』

厚生省児童家庭局家庭福祉課

児童福祉専門官 相澤 仁

- 特に児童虐待に対する取組がはっきりしてきてよくわかりましたが、地方となるとまだ機能していないと思う。まだ国民の中にしられていないのではないかと(山形県)
- 社会福祉の制度の変化の概要がわかり、よかった。資料も豊富でとてもよかった。(新潟県)

シンポジウム

『不登校経験者から感じた学校・家庭の対応』

コーディネーター

NHK 週刊子どもニュースキャスター 池上 彰

様々なタイプの不登校経験者 3 名~4 名

助言者 教育研究所所長 牟田 武生

- 不登校体験者の声が聞けたことは私たちの姿勢、対応の仕方、考え方を見つめなおす点でとてもよかったと思う。教師に対する不信感が強いことはショックだったが、やはりそうかと思わざるを得ない。現状に無力感を感じる。(福岡県)
- 体験された方が 4 人も実名で語ってくださったことに感謝しています。生の言葉で今までのことを語ってくださり、そして、それは今の自分にとって必要な時間だったと前向きにとらえていらっしやったことに対して心からの感動を覚えました。ありがとう！(東京都)

- 体験者の方の話を直接聞くことが出来て本当によかったです。ただ、体験者の方がみんな学校（担任）に対して不信感を持っていられたことが残念でした。家庭訪問が一回だけだったなんて考えられません。担任も大いに悩んでいます。（千葉県）
- 本当に四者四様で各個人によって対応の仕方が異なり、個人対個人として付き合わなければいけないことを再認識した。（兵庫県）

基調講演

『追跡調査から見た今日の不登校現象』

大阪市立大学教授 森田 洋司

- 長い期間にわたっての調査から不登校を本人、家庭、社会と総合的にとらえていくこと、又現代日本のストレス文化は大人、子ども全員が受けしていることを教えられた。不満の多い学校であるが、その本人にとって我慢するに足る何かがあれば頑張れる、その希望を持たせたいものである。（東京都）
- テーマが良く見えてすぐにでも実行できるようなお話しでよかった。（神奈川県）
- 現代の社会状況がよく理解できました。そこから不登校が出てくるのはいたしかたないと感じました。森田先生のお人柄がうかがえる楽しい講演でした。（埼玉県）
- 氏の幼少、青年期の体験を織り交ぜながら持論をこぎみよく展開される手法は非常に分かりやすく、また、納得する点が多かった。社会学的切り口による問題の見方はアンケート調査をきめ細かく実証的に分析し、そこから出てくるグローバルな普遍性のある性質を見つけ出して社会に還元しようとする、氏の並外れたエネルギーに感服しました。（滋賀県）

『荒れる学校と少年法改正』

筑波大学名誉教授

早稲田大学教授 下村 哲夫

- 豊富な御体験から学ぶものが多いように感じました。統廃合の裏にあるものと教育の行方

について保護者教員として見る目を養っていないといけないと思いました。（広島県）

- 下村氏の問題への切り込み方、姿勢がよく分かる講義だった。氏のこれまでの実践が言わしめる論は歯に衣着せぬするどいものだった。少し脱線するときはあるが、それは氏の人間性を示すもので単なる煩わしさにとどまらず、温かさのあるものでした。さすがである。（滋賀県）
- 大胆な発言で胸がすっとするような気持ちになった。もっと先生の考え方が聞きたいと思います。特に質問を受けておられる時の口調、内容がよかったです。（福井県）
- 少年犯罪はマスコミが騒いでいるだけだということがあった。そうであって欲しいとも思う。学校の制度事態にも無理がある。これからの学校はどう進んでいったらよいのか問題はたくさんある。（埼玉県）

『教師が取り組む不登校

～不登校対応チャートによる指導』

国立特殊教育総合研究所

情緒障害教育研究室長 花輪 敏男

- 長年の実践からのすばらしい手法で大変勉強になりました。そしてまだまだ自分も勉強し、実践をしなければと思いました。（山形県）
- とても参考になりました。子どもの心の奥の声（気持ち）を見て接することがいかに大切かがわかった。親とのかかわりを通して子どもに伝えられることが教師の役割であるのかもしれません。学校が専門機関をうまく利用することが大切だと思います。（埼玉県）
- 実践に基づいた対応方法が具体的で非常に参考になりました。親の養育の仕方が原因ではないと告げることが大切、親に希望を持たせることの大切さが分かりました。（埼玉県）
- 実践されている先生の話、非常に参考になりました。本を出版されていたら購入したいのですが、まだ出版されていないとのことですが実践資料があれば欲しいです。（大阪）

先生のお話を伺いたいと思う。(神奈川県)

『社会的ひきこもりの理解と対応』

(社) 青少年健康センター理事

(医) 北の丸クリニック所長 倉本 英彦

- 待つ姿勢の大切さはよく分かる。しかし、学校にいる者としては本人、家族の焦りと同様の焦りも覚える。その辺りの自分の気持ちの整理が大事なのだと思う。(福井県)
- 社会的ひきこもりを医学的見地から見ると色々なことが分かった。現在は教育的見地からだけではなく、色々な方面から見ないと原因がわからないことが多いので参考になった。(沖縄県)
- 高校中退をテーマにその時期の対応方法を話していただいて分かりやすかった。不登校の指導にも共通しているように思えた。
- 専門の方でも解決できないことがあるということの本音で語ってくれたのがよかった。(東京都)

『不登校の心理・予防・再登校への援助』

国際学院埼玉短期大学教授

附属教育相談研究センター所長 金子 保

- 先生のお話を聞きながら自分の日頃の対応はどうだったかを振り返りました。もうすぐ2学期が始まります。今日の反省を忘れずに頑張りたいと思います。(三重県)
- これまでの先生方の意見と異なる部分が多かったけれど、共感できる所が多かった。多様なアプローチがあり、それに気付かせてもらいました。(兵庫県)
- 久しぶりに金子先生の話聞き、心新たに実践に意欲が湧いてきました。ぜひ、子育て支援をしたいという気持ちが強まってきました。(埼玉県)
- レジュメにそってお話がなされたのでとても分かり易かった。いろいろな体験に基づいたお話で、話し方も平易で理解しやすく実行してみようと思いました。今回の講義の中で理論展開も内容も最もよかったので、ぜひ又、

『不登校、子どもの状態像に即した対応』

新潟大学名誉教授・仙台白百合女子大学教授

石郷岡 泰

- 不登校の生徒と関わっており、分からなかったことが裏づけのように理解できました。ありがとうございました。(東京都)
- 子どもの人格を作り上げている精神的バックグラウンドについてよく分かったような気がします。(埼玉県)
- 不登校を前面に出さず、子どもの成長の原点、成長のあり方、成長の仕方を分析することにより、子どもの成長過程のひずみのひとつである不登校の実態に迫ろうとする講義は大変参考になった。(宮城県)
- かなり細かく心の動きを説明してくださり、子どもを理解する上で役にたった。(福岡県)

運営について

- 8月のこの時期北の方ではもう2学期が始まってしまいます。開催時期のこと考えてみてください。
- 時間をきっちり伸びないようにしてほしい。休み時間をもう少し長くしてほしい
- 夏休みだけではなく冬休みにも研修会を開催してほしい。
- 3年に1度くらいは大阪で開催してほしい。
- 会場が少し寒すぎました。
- 会場の入場時間ですが、ロビーで待つのはつらいです。特に初日は…。
- 受講証は毎日きちんと見てください！。
- 個別相談コーナーなどがあるといい。
- 他の参加者と話せる機会があるといいと思いました。
- 質疑の時間をもっとしてほしい。

多くのご意見ありがとうございました。なるべくご期待に添えるように今年度の企画を進めてまいりました。まだまだいたらない点が多いと思います。今後も努力を続けてゆく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。(事務局一同)

平成 12 年 8 月 21 日～23 日

第 10 回 教師&専門家のための登校拒否研修会

決算報書

主催 (社) 青少年健康センター・登校拒否研究会

収入の部 (平成 12 年 9 月 10 日現在)

①受講料 (有料 449 名) 6,858,000 円

②預金利息 104 円

④平成 11 年度決算終了後活動費 100,000 円

合 計 6,958,104 円

支出の部 (平成 12 年 9 月 10 日現在)

①ホール借料 (機材借料、技術者料含む) 1,293,474 円

②講師お礼 (100,000×6、50,000×2、10,000×4) 740,000 円

③講師交通費 (35,000×2、7,000×1、3,000×5、2,000×4) 100,000 円

④スタッフ用役費及び交通費 (時給 800 円×900 時間 h/人) 720,000 円

⑤ボランティア交通費 115,451 円

⑥食事代 (講師・ボランティア昼食、打ち合わせ費用含む) 168,692 円

⑦郵送費 1,576,101 円

⑧印刷費 パンフレット 562,500 円

封筒 207,000 円

講義ノート 480,000 円

他印刷物 (受講証他) 187,500 円

ラベル出力・名簿管理 205,000 円

消費税 82,100 円

⑨雑費 (源泉預かり、事務用品費を含む) 175,962 円

⑩事務諸経費 (電話代等) 150,000 円

⑪支払い手数料 20,930 円

⑫第 10 回研修会参加者への報告及び研究会通信発送費 200,000 円

⑬決算終了後の活動費 (交通費・電話代等) 100,000 円

⑭平成 11 年度不足分返済 664,235 円

合 計 7,748,945 円

収入－支出＝△790,841 円は主催団体の立て替え分とする。

参加者内訳

全参加者数 453 名

内 訳

一般参加者 436 名

学生参加者 (教員で研修のため大学在籍者含む)

13 名

招待者 4 名

参加者内訳

小学校教諭 97 名

中学校教諭 117 名

高校教諭 94 名

(中高併設学校については中学で登録)

養護学校教諭 18 名

教育委員会 43 名

児童相談所 3 名

その他(他の教育機関・施設などを含む) 64 名

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新刊のご紹介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『学級崩壊・授業困難はこうして乗り越える』

金子 保

大問題になっている学級崩壊の原因を、全国の様々な実態調査から分析。事例別に予防の方法と具体的な最善の解決策を提示。

小学館 定価：本体 1600 円+税

『ひきこもり/不登校の処方箋』

-心のカギを開くヒント- 牟田 武生

「ひきこもり」による心の空洞化、体に起こる自律神経失調状態、「ひきこもり」の状態像の捉え方を分かり易く解説。心の状態別の対応の仕方による立ち直りのきっかけ作りなどを提示。

クワ書店 定価：本体 1600 円+税

不登校問題研究会について

不登校については多くの人々がそれぞれの立場で、不登校の部分的な問題について指摘し、論じてまいりました。教育の現場や家庭の家族関係の現場や子どものケアにかかわる人々の間では、専門的な研究結果や情報や方法論が部分的に伝わる事で混乱が起り、実践家の間でもなんとかしなければならぬと、認識されるようになりました。

これらの事を通じて、不登校にかかわる人々の専門的な研修機関の設立に大きな意義があると感じ、平成3年6月、『登校拒否研究会』を設立致しました。『登校拒否研究会』は平成13年会の名称を不登校問題研究会に改めました。設立当初から研究会の幹事である牟田武生（教育研究所代表【民間施設】）がボランティアとして企画運営しています。

『不登校問題研究会』は今までの取り組みや研究成果を一元的に集約し、この問題にかかわる教師・カウンセラー・医師及び行政の方々の研修を積み重ね、この問題への解決を図って行きたいと考えております。

当研究会を発足して以来、文部科学省、厚生労働省、各大学研究機関など多数の方のご理解、ご協力を得て、また、平成10年から(社)青少年健康センターも共にボランティアでかかわる形でご協力いただき、10年間にわたり全国規模で研修会を開くことができました。

教師・カウンセラー・セラピスト・ケースワーカー・臨床心理士・医師・児童相談所の相談員・教育委員会を含めた行政など、様々な分野でこの問題にかかわっている方に集まっていただき、大きな成果を得ることができました。

今後もこの研究会の発展のためにご助言とご協力を下さいますようお願い申し上げます。皆様のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

(社)KODOMO健全育成協会

設立に向けて会員募集およびご寄付のお願い
はじめに

社団法人KODOMO健全育成協会の母体となる教育研究所は「子どもの側に立つ、創造的な教育実践を目指す」ことを目的に昭和47年(1972年)設立されました。以後、子どもの気持ちや心を大切に30年近く教育実践を行ってまいりました。そして不登校の問題では日本の教育界のパイオニア的な存在であり、常に先陣を切ってまいりました。

ひとり一人の子どもの心を大切にしたいきめの細かい教育実践によって、数多くの子ども達が学校に復帰したり、社会に適応していきました。しかし、そのような対応を実践していくためには子ども5人に先生一人という少人数教育が必要であり、さらには心理、教育等のエキスパートを育成しながら対応していかなければならないため運営問題を常に抱えており、これまで多くの方々の寄付で成り立っているのが現状でした。

そして、この度これまでのひとつ一つの実践の積み重ねが社会的によく認知を受け、社団法人準備室の設立にこぎつけてまいりました。今後は社団法人(公益法人)になり、行政からの支援も受けながら経営の安定をはかり、「子どもや家族のための」社団法人として活躍してまいりたいと思います。どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

社団法人KODOMO健全育成協会準備室

代表 牟田 武生

※(社)KODOMO健全育成協会についてのお問い合わせは教育研究所までご連絡ください。

編集後記☆☆☆☆☆

◇「不登校問題研究会」に名称を変更し、初めての研修会を迎えようとしています。

平成12年度の不登校生の数が8月10日に文部科学省から発表されました。13万4000人という数はどう考えていいものか、もう分らなくなりました。ただ、継続して不登校に陥る子どもの数も増加しているようです。不登校はタイプによっては、心の問題があるので、短期的な対応によって改善することは難しいことはわかりますが、長期化すれば、するほど難しくなっていくのも事実です。

特に、ひきこもりのともなう不登校の場合は、そのまま、大人になり、「社会的ひきこもり」になっていくケースも非常に多くみられます。しかし、大人になると、社会適応するためには、再登校するよりも困難がともなうケースが多く見られます。思春期に適切な対応をすることを心がけることが重要なことなのかもしれません。(ム)

◆12年度のアンケートを見ると運営面でも多くのご指摘をいただきました。まず開催時期の問題です。8月20日前後の開催は地域によっては夏休みが終わっていて参加しにくいというものでした。8月の前半の開催が望ましいとのことで、見当を重ねたましたが、8月前半の開催は準備の点で難しく、ご要望にお応えできないのが現状です。この研修会は教育研究所という民間の教育施設（不登校の子ども達が通っている）が母体となり、スタッフはじめ、通っている子どもやお母さん方のボランティアで成り立っています。夏休み前半までは子ども達も大検をはじめ、なにかと忙しく、講義ノートの印刷、製本、資料作りなどどうしても8月に入ってからの作業になります。その関係もあり、8月20日前後の開催になってしまいます。

また、参加費用が高額であるというご指摘も多く寄せられました。会の性質上、文部科学省、連合会などの後援名義を使用するために、利益を出すことが出来ません。さらにどこからも資金援助はなく、参加費が財源の全てになります。収支はごらんの通り赤字の状況です。赤字分は研究所の

運営費から補填されています。

素人が始めた研修会、もっと運営面での改善が必要と反省しきりですが、広報活動一つをとっても、どうすれば、より多くの先生方の目に触れることが出来るのか？現状では、全国の学校へのダイレクトメールと教育委員会の文書棚経由で各学校に配布して頂くという、二つの方法がメインです。その他新聞社、教育雑誌各社などの協力もえています。学校を取り巻く仕組みもよく分からないために、毎年暗中模索の連続です。来年度からは会場を変更するなど、経費削減に着手していこうと考えています。何かいいアイデアがありましたら、是非事務局までアドバイスをください。

(西)

◇から梅雨、猛暑の中で始まったこの研修会の準備も今年は秋風を感じる中、最後の準備に追われています。今年の横浜は季節が半月程度早く駆けぬけていったようです。研修会のお手伝いをさせて頂いてもう7回目になります。不登校をめぐる社会状況はこの数年の間はかなり変化してきました。しかし、その数は増加の一途です。この研修会が不登校の子ども達の心の不安や葛藤、苦しみの理解、そして先生方の取り組みの参考のなればと思います。参加されている方々が、少しでも気持ちよく受講できるよう努力していますが、いたらない点が多くあると思います。お気づきの点があれば是非アンケートにご記入ください。(沼)

◆今年から名称があらたまり、不登校問題研究会になり、第11回を迎えました。私がお手伝いさせて頂くようになってからも、もう4年目になります。不登校と一言でいっても、それぞれ状態像も背景も異なり、解決方法も一つではありえない、知れば知るほど難しい問題であるように実感しています。また、日頃、子どもたちと接していると、試されているんだなあ。と、怖くもなります。まだまだ勉強や精進がたくさん沢山必要なようです。(田)